

富山でみえる 2020年8月の星空

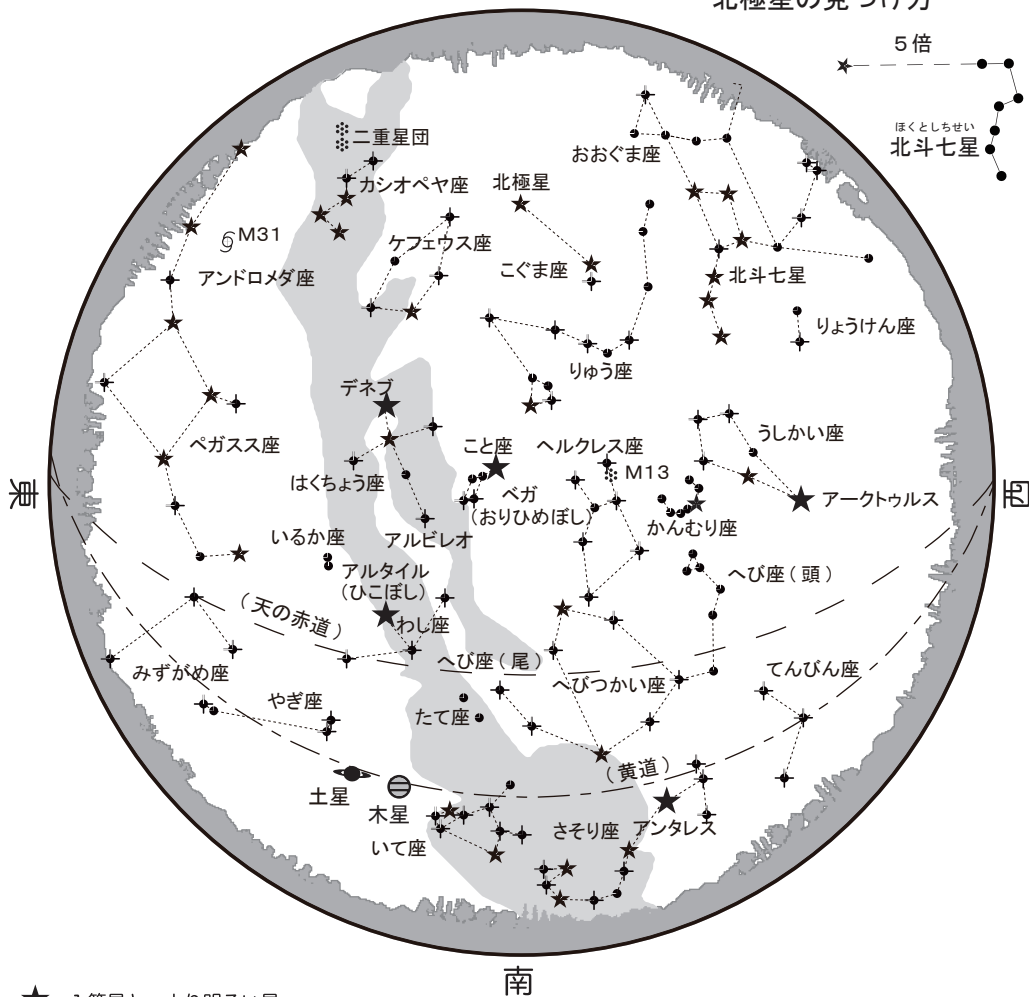
自分の見たい方角を下にして、その方角の空を見てみよう。

北

ほっきょくせい
北極星の見つけ方

5倍

ほくとしちせい
北斗七星



- ★ 1等星と、より明るい星
- ☆ 2等星
- ✦ 3等星
- 4等星と、より暗い星
- ◎ 変光星
- ※ 星団
- ≡ 星雲
- ☉ 銀河

～この星空が見えるのは～

- 8月 5日 午後9時ころ
- 8月 20日 午後8時ころ
- 9月 5日 午後7時ころ

～月のようす～

- 8月 4日 満月 ○
- 8月 12日 下弦 ◐
- 8月 19日 新月 ●
- 8月 26日 上弦 ◑

こと座

夏の星空で一番明るい恒星のベガが目印です。ベガは七夕のおりひめ星です。ベガの東側には望遠鏡で見ると二重星が2つ並んで見える「ダブル・ダブルスター」という星があります。また、この星座にはドーナツのような形をした星雲（リング状星雲）もあります。



リング状星雲

わし座

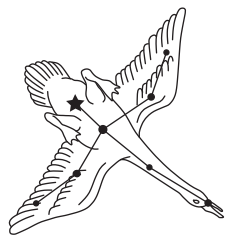
七夕のひこ星であるアルタイルが目印です。アルタイルとは「飛ぶワシ」という意味で、2つの星がアルタイルを挟んで一直線に等間隔でならんでおり、この3つの星の姿を飛んでいるワシに見たてたそうです。



アルタイル

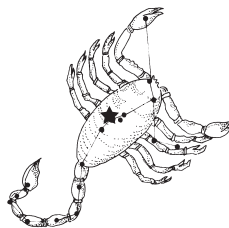
はくちょう座

夏の大きな三角の一つである一等星デネブが目印です。この星をしっぽにして、天の川の上できれいな十字の形をつくっています。くちばしの星はアルビレオといい、肉眼では一つの星に見えますが、望遠鏡で見るとオレンジ色と青色の2つの星に見えます。



さそり座

赤い1等星アンタレスが目印です。釣り針のような形に星が並んでいるので、日本では「魚釣り星」や「鯛釣り星」と呼ばれました。なお街明かりなどのため下半分は見えないことがあります。アンタレスはとても大きな星で、太陽の約700倍もあります。



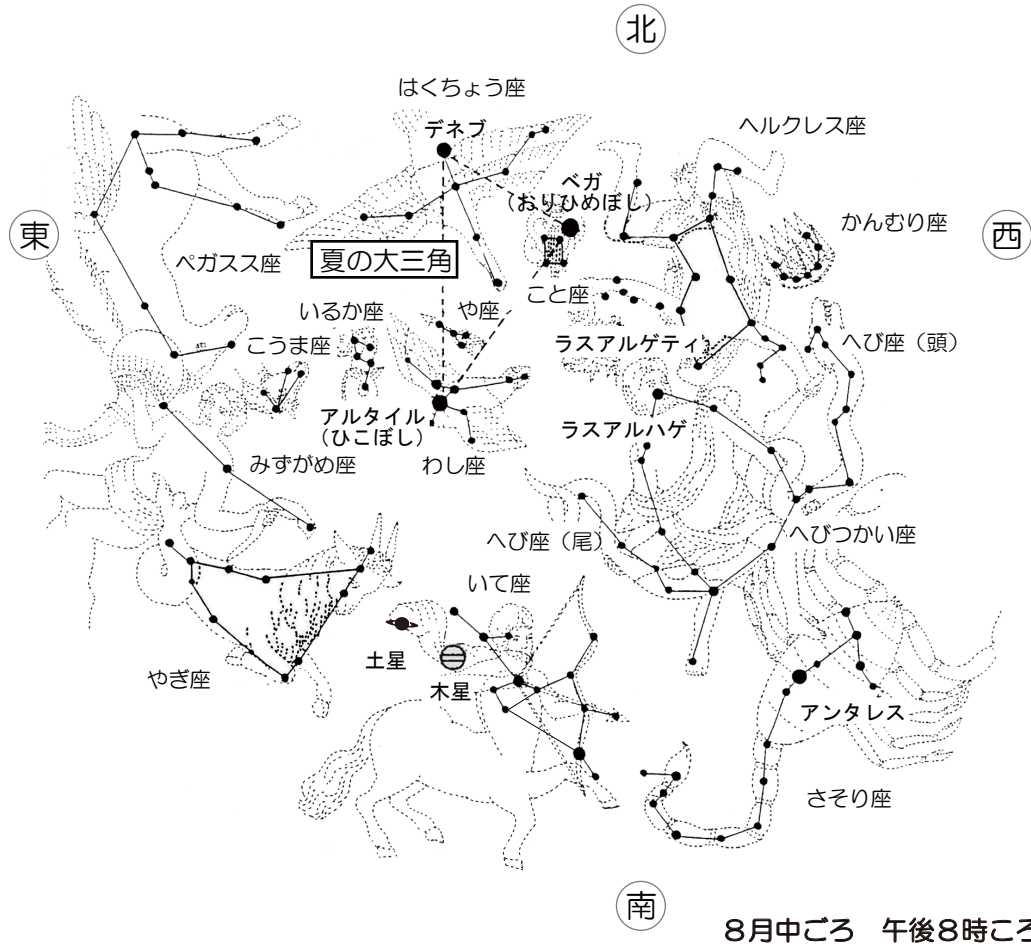
いて座

南の空低く、天の川の一番明るいところにおいて座があります。そこは、天の川銀河の中心方向です。いて座で目につくのは「南斗六星」。そこから星をたどると、半人半馬のケイローンが弓を射る姿になります。



南斗六星

夏の星座の見つけかた

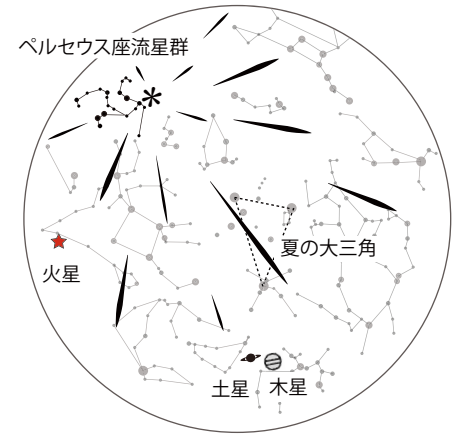


- 1 空高くに、青白くてとても明るい、こと座のベガを見つけます。それを手がかりとして、「夏の大三角」を見つけます。
- 2 南の空に、釣り針の形をしたさそり座を見つけます。
- 3 夏の大三角とさそり座の間に、へびつかい座を見つけます。2等星ラスアルハゲがへびつかい座の頭の部分です。
- 4 さそり座の東に、いて座があります。いて座の中にあるひしゃくの形をした「南斗六星」から、いて座の星の並びを見つけます。今年は、いて座の近くに「木星」と「土星」がかがやいています。

流れ星を探してみませんか

夏のお盆ごろ、毎年ペルセウス座流星群の流れ星がたくさん見られます。今年のピークは8月12日午後10時ごろと予想されています。放射点(*)の昇ってくる午後11時以降に見やすくなりますが、この日下弦の月が午後11時半ごろに昇ってくるので、月明かりの影響が大きい午前1時前までが観察には好条件です。右図の*のあたりからわき出す方向に、空全体のどこかに現れます。どこに出現するかわからないので、なるべく空全体を見渡すようにしましょう。

なおこの日に流れ星が見られなくても、前後数日は見ることができます。



月が昇る前、8月12日午後11時ごろの全天

天の川

山や海など夜空の暗い場所では、晴れていればうっすらとした光の帯が見えます。天の川です。その正体はわたしたちがいる天の川銀河の無数の星たちです。太陽のように自分で輝いている恒星の集まりで、その数はおよそ2000億個もあります。



中国や日本では七夕伝説に登場しますね。天の川をはさんで、おりひめ星(こと座のベガ)、彦星(わし座のアルタイル)が輝いています。また、いて座のあたりが最も明るく、ここが天の川銀河の中心方向です。

チャンスがあったら、ぜひ天の川を見てくださいね。